

競技規則

本大会は、日本ローラーホッケー協会の定めた1996年度のノーコンタクトルールにより行う。但し、試合時間など一部についてはローカルルールを適用する。

チーム構成

- ・1チーム 3～5名以内とする。(リンク上は3人)
- ・大会申込時にキャプテン1名を申告する。

試合時間

- ・ロスタイムを含み、5分×2ピリオドとする。
- ・選手の怪我、施設の破損等が生じた場合はレフェリーによりタイムアウトが宣告され、この時間は試合の時間に加えられない。
- ・終了時間に同点の場合は引き分けとする。ただし、決勝トーナメントにおいては、3分間の延長サドンビクトリーを行う。このときフィールドプレイヤーのみの3on3方式とし、得点はセンターラインを超えてからのシュートした時のみとする。

得点

- ・パックが完全にゴールラインを超え、それをレフェリーが認めたとき得点となる。
- ・故意にスティック以外を使い得点しても認められない。
- ・センターラインの手前からのシュートは得点として認められない。

アウトオブバウンズ

- ・パックが場外に出た場合、出した位置(原点)に最も近いフェイスオフスポットでフェイスオフを行う。
- ・フェイスオフスポットがセンターだけの場合は審判の判断により行う。

オフサイド等

- ・オフサイド、クリアリングは適用されない。

ルール

- ・ノーコンタクトルールのため、いかなるボディチェックも禁止される。ただし、スティックによるパックへのチェックは許される。
- ・ゴールに向かう相手側の進行を妨害することは許される。この際、身体の接触が生じても故意でなければ反則にはならない。
- ・反則を科された選手は、30秒間の退場とする。(ストップタイム)
- ・いかなる場合でも、スティックのどの部分も肩より上に上げてはならない。
- ・バッティングシュート(膝より上にスティックを上げてのシュート)は禁止する。
- ・いかなる反則も、それが悪質な場合、反則を科された選手は即退場となり相手チームにペナルティーシュートを与える。
- ・キャプテンのみがレフェリーに質問することができる。
- ・レフェリーやオフィシャルに対して暴言を発したり、暴行を加えたり、そういうふりをした場合は即退場となる。

ゴールキーパー

- ・ゴールクリーズ内にいる選手は、ゴールキーパーの防具を着けていなくてもゴールキーパーと見なされる。ただし、その選手はフルフェイスマスクを着けていなければならない。
- ・ゴールキーパーだけが、手でパス(ハンドパス)することを許される。
- ・ゴールキーパー以外の選手は、故意にゴールクリーズ内で手や体でパックを押さえたり、パックをかき寄せたりしてはいけない。これに違反した場合、相手チームに1点を与えることがある。
- ・足ツキ、膝をついて防いではならない。

選手の交代

- ・選手は、いつでも、何回でも交代することができる。ただし、試合の進行を遅らせる行為は警告の対象となり、悪質な場合は相手チームにペナルティーシュートを与える。

防具

- ・安全確保のため、ヘルメット(ゴールキーパーとみなされる選手および20歳未満男性と女性選手はフルフェイスマスク付き)・グローブ・エルボーパッド・シンガート(レガース)を着用しなければならない。眼鏡(サングラス含む)使用の選手はバイザーまたはフルフェイスマスクを必ず着用する。また、その他の選手においても、危険防止のため、フェイスマスクの着用を推奨する。
- ・試合中に防具がとれた場合、正常な状態に戻るまでプレーに参加してはならない。これに違反した場合ペナルティ対象となる。また、これに違反した選手がゴールしても得点とは認められない。

出場選手

- ・出場選手は、事前に申込みをした者に限る。ただし、やむを得ない場合、大会当日の受付時に申し出るにより、追加、変更を認められる。